

廿日市市総合計画審議会 第4回会議録（要点）

日時：令和7年4月22日（火）18時半～

場所：廿日市市役所7階 会議室

1 開会

2 議題

- (1) はつかいち未来ビジョン2035（案）（廿日市市総合計画 基本構想）
- (2) はつかいち未来ビジョン2035 前期基本計画（素案）（廿日市市総合計画）

（資料1 22ページ「第1部 総論 6 廿日市市の特性」）

委員	・ 22ページに「特徴的な産業を有するまち」で廿日市の産業の図示がしてあるが、「産業」の基準が曖昧であり、掲載されているものの基準がわからない。
事務局	・ 「産業」という表現は、一次産業、二次産業、三次産業すべて含まれるが、具体的に、掲載されているものとされていないものの明確な違いはない。

（資料1 34～37ページ 「第2部 基本構想 3 将来の都市構造」）

委員	・ P34～37に記載されている、「将来の都市構造」に唐突感がある。 ・ また、記載内容について、総合計画審議会ですべて審議されていない内容があり、どのような審議をふまえて、決定されたものなのか。
事務局	・ 都市計画マスタープランは、総合計画と同時並行で検討が進んでいる。 ・ 総合計画の内容を踏まえ都市計画審議会でも検討・審議し、そこで決まった内容を掲載することになる。

委員	・ エリアごとの特性やビジョンを計画に盛り込むことはできないか。 ・ 地域ごとの特性を計画に反映することが、基本理念や将来像の「ともに」というところにつながる。 ・ 人と人が「ともに」もあるし、地域と地域が「ともに」もあると思う。
事務局	・ 基本計画56～58ページに「拠点性を高めるまちづくりの推進」という施策方針を掲げており、各地域や地区に応じた取り組みが必要だという課題を認識している。 ・ 基本構想の反映については検討する。

(資料1 38 ページ 「第2部 基本構想 4 基本構想の体系」)

委員	・ 各分野の目指す姿「3 安全・安心」と「6 都市基盤」の副題的な部分が非常に似ているので、表現を検討してほしい。
事務局	・ 将来像の実現に向けて、しっかりと紐づいて説明できるよう検討する

委員	・ 8つの施策分野に優先順位があるのか。
事務局	・ 優先順位があるものではない。

(資料1 43 ページ 「第2部 基本構想 5 各分野の目指す姿」)

委員	・ 地域経済が自立・発展するまちは、イメージがわきにくい。 ・ 経済が自立する具体的なイメージを教えてほしい。
事務局	・ 廿日市市は、これまでベッドタウンで市外からの人の流入を増やしていく方向を目指していた。 ・ 今後はホームタウンとして、持続可能な都市であり続けるため、このような表現を用いた。 ・ 自立という言葉で捉えると、他の地域の影響を受けずにやっていくという捉え方になってしまうので、他の表現を検討する。

委員	・ 「はつかいちらしさ」という表現があるが、恐らくみんな、「はつかいちらしさ」とは何かにつかかるといった。 ・ 「廿日市の特性を活かした」という表現の方がしっくりくると思う。
事務局	・ 廿日市の特徴を活かすという意味で、このような表現を用いた。 ・ ご意見を踏まえ、他の表現を検討する。

(資料1の計画構成について)

委員	・ 現状があって、課題があるというような流れがないため、計画を読んで、納得する流れになっていない。 ・ 何故、将来像の中に4つの大切な考え方が出てきたのか、また、そこから8つの分野がどのように出てきたのかという流れが見えない。 ・ 4つの考え方や8つの分野を繋ぐ考え方を考えるのがこの構想だと思っている。 ・ そこはもう少し、分かりやすくなった方が良い。
事務局	・ 分かりやすくなるよう、検討する。

(資料1 全般)

委員	- 冒頭の部分で、計画策定の目的が「持続可能な市政運営を行うため」と書いてある。 - 総合計画は、まちづくりのためのものであり、このあたりから少しずつ、策定の目的などがずれている気がしている。 - また、本計画の名前は、「はつかいち未来ビジョン 2035」となっているが、何故そうなったかが書かれていない。 - 計画名を「はつかいち未来ビジョン 2035」にした理由は、一つのメッセージだと思う。 - こうした点を繋いでいくことで、ネーミングや構想の流れがつながるので、一貫性を持った書き方を一緒にやっていければと思う。
事務局	表現や記載の仕方を精査する。

(資料5 20～21 ページ「施策方針 1-1 こども・子育て支援」)

委員	課題の「こどもだれでも通園制度」は、来年からスタートするため、この内容を前期の5年をかけて計画していく事に対して、5年も恐らく行わないと思うので、具体的に書き過ぎてどのようなものかと思った。
事務局	取り組めるところは、今年度からしっかり取り組んでいく。

(資料5 22～23 ページ「施策方針 1-2 学校教育の充実」)

委員	課題に、「教職員の負担軽減を図り、児童生徒と向き合う時間を十分に確保する必要があります」とあるが、誰が向き合うのかを明記したほうがいい。
事務局	担当部署とも協議し検討する。

(資料5 44～45 ページ「施策方針 4-3 農林水産業の振興」)

委員	課題に、林業従事者の担い手確保と生産力向上が必要とあり、指標として、原木の生産量と森林整備面積が書かれているが、具体的な施策の方向性や取組を今後示していただきたい。
事務局	本年度、市としては新たに林業振興ビジョンを策定するため、そことしっかり整合を図りながら進むべき方向を示せるようにしたい。

(資料5 全般)

委員	・ 第6次総合計画の中で、様々な事業に取り組まれて、実績もあると思うので、そこはアピールしつつ、次の5年間はこういう形でこういう所に注力する、という形が良いと思う。
事務局	・ 今回の策定方法としては、市民参画で将来像を描き、その将来像を実現するために、分野ごとに目指すところを描くという、バックキャストのやり方で課題や取組等を落とし込んでいるところである。

委員	・ 廿日市市は、デジタル関係で様々取り組まれていると思う。 ・ デジタル化を打ち出した具体的な施策があってもよいと思う。
事務局	・ 現時点では記載ができていないが、行財政運営のところで、記載をしていきたいと考えている。

委員	・ 中山間地域振興ビジョンは、この計画のどこに入ってくるのか。
事務局	・ 地域の計画となる中山間地域振興ビジョンと宮島まちづくり基本構想は、分野横断的なものなので、表現については、検討している段階である。